

農場や学校、病院も

工員の福利施設を急げ

賀川氏と吉岡し対談

京都同志社大の創立七十周年記念にのぞんだ賀川豊彦氏は廿九日、同氏の第二の故郷である神戸を訪れ神戸川崎造船工場の工員三千を前に「日本再建の原動力は勤労諸君の腕にかかっている、生産力なくして日本復興なし」を絶叫ののち同工場勤労部会議室で吉岡造船所長ほか幹部連と膝を交へて懇談したが、その日の「賀川対吉岡」対談の一齣を択すれば（写真は語る賀川氏）

吉岡 食糧の悩みが現在日本のあらゆる面の悩みと隘路あいろになっている例にもれず造船も腹が減ってるので進まない

賀川 私は全国工場に推奨したいことは生産消費組合を作ることだ、この工場に三千人の工員がいるのなら百五十町歩位の農場を工場自体で経営し米麦、野菜の自給を図らねばウソだ

工員だけの食ぶちでなく進んで工員の家も女房、子供らの食糧も心配する親心を会社ももっていなければ工員は落着いて仕事に打込めやしない、私は賃銀より福利施設だと思ふね、その点武藤さんのうち立てた鐘紡の福利施設は世界の水準をぬいていたと敬服している

吉岡 その計画で自給農場を早速やっても少くも一年は間に会はんからね

賀川 商人がもってくるのを待っていても必要量は入手できないし工員達の生活費が嵩むばかりだ、農場ばかりでなく学校も幼稚園も病院ももろもろの福利施設を従業員に与へひいては神戸市民にも利用させる位の規模をもたねば「神戸の川崎」といへませんよ、それから吉岡さん、この工場は将来も造船一本でゆくのですか？

吉岡 賠償の対象にならんかと気がかりだが造船の他はいまのところ考へてないが…

賀川 自動車もおやりになったらいいと思ふのだが、…私は雪の多い農村にスイツランド式の時計学校や時計工場をつくり若い農民や足や手を失った傷兵を全国から集めて将来スイスに負けない時計工業を興したいと考へてるんですよ

吉岡 十二月一日を期してオール川崎の工員のみ労働組合が会社にも誕生するが、こんど出る労組法では勤労階級だけでなく事務仕事の職員も加入すべき性質のものと思へるが……

賀川 当然さうなんですよ、労働組合といへば三十年昔私らが神戸で叫んでいた時のも

のとは根本的に性質も異なるもので資本家に対抗してストライキをやる機関だと思ったら飛んだ間違いで新しい労働法はサラリーマンも工員も傭はれている側はみんなが一丸になって生活確保に邁進し過去の軍国主義を拂拭するのはもちろん長い間、戦争にそそぎ込んでいたエネルギーを生産を通して文化文明にそゝぎ込むことが、そのまゝ日本を誕生させ国体を維持することになるのですよ、だから従来のやうなみにくい労資衝突はこんどの労組法では極力避け資本家と従業者は眞に親子の関係「工場一家」のかたちでゆかぬと日本極楽の興隆はあり得ないと信ずる。

「労働学校・神戸社会教育協会」

1945（昭和20）年12月14日「神戸新聞」

労働学校や

神戸社会
教育協会

賀川、高野、河上氏らが設立

時の人、賀川豊彦、法學博士高野
岩三郎、代議士河上丈太郎氏らが
創立委員となつて神戸に民衆の政
治教育、社会教育を旨とする神戸
社会教育協会とよび「労働学校」
が新生する。神戸に労働大衆のた
めの労働文化協会ならびに労働學
校が生れたのは古く大正十三年に
遡りその後、時の流れに押潰され
てゐるものであるが、今日こそ勞
働大衆やサラリーマン階級に政治

社会教育を普及徹底させるの民主
社会主義に乘出すべくその名称も
新に設立発足の運びとなつたも
で
十三日社会教育協会 仮事務所
（兵庫區梅元町一五六、榎本英
彦氏方）に於て準備委員会を開
いた結果、神戸産済大學、関西
學院、阪大、京大等の各専門教
授を講師として国民學校や工場
に巡回講座を準備し、ゆくゆく
は同協会の普通會員、賛助會員

を糾合し定期講座開設および
發創立に乘出した時代の女性教
育のさして婦人部も創設する、
なほ同協会の幹事には永江一夫
佐野芳雄、中川光太郎 森路甚
一 船田平一氏らが選任されて
ゐる

労働学校や

神戸社会教育協会

賀川、高野、河上氏らが設立

時の人、賀川豊彦、法学博士高野岩三郎、代議士河上丈太郎氏らが創立委員となって神戸に民衆の政治教育、社会教育を目途する神戸社会教育協会および「労働学校」が新生する、神戸に労働大衆のための労働文化協会ならびに労働学校が生れたのは古く大正十三年に遡りその後、時の流れに押潰されていたものであるが、今日こそ労働大衆やサラリーマン階級に政治社会教育を普及徹底させ眞の民主社会創成に乗出すべくその名称も新に設立発足の運びとなったもので、

十三日社会教育協会仮事務所（兵庫区梅元町一五六、榎本英彦氏方）に於て準備委員会を開いた結果、神戸経済大学、関西学院、阪大、京大等の各専門教授を講師として国民学校や工場に巡回講座を実施し、ゆくゆくは同協会の普通会员、賛助会員を糾合し定期講座開設および学校創立に乗出し親時代の女性教育めざして婦人部も創設する、なほ同協会の幹事には永江一夫、佐野芳雄、中川光太郎、森脇甚一、前田平一氏らが選任されている。